社団法人北海道林産技術普及協会
創立50周年記念事業報告

はじめに

当協会は，昭和28年9月より北海道林産技術普及協会の名称で業務を開始し，昭和41年3月に法人格を取得，社団法人北海道林産技術普及協会となり，今日に至っております。

本年は協会設立50周年という節目の年であり，総会に諮り，記念事業を実施致しました。都合によりご出席頂けなかった会員の皆様への報告を兼ね，後世に残す資料として，事業報告を掲載致します。

1．記念式典及び祝賀会の開催

記念式典

記念式典は，平成15年4月25日(金)14時から旭川市6条通9丁目旭川グランドホテル白鳥の間において挙行されました。

式典には，会員の他，関係官庁，業界会団より来賓の方々のご出席をいただきました。

式　辞

(社)北海道林産技術普及協会会長　高橋秀樹

本日ここに，北海道をはじめ関係各位のご出席を賜りまして，社団法人北海道林産技術普及協会の創立50周年記念式典を開催できますことは，主催者と致しましてこの上ない喜びでございます。厚く御礼申し上げます。

当協会は，北海道立林業指導所(現，林産試験場)と連携を保ち，木材加工技術に関する研究を促進し技術向上及び普及に努め，併せて会員相互の親睦を図ることを目的に，木材産業界の有志によって昭和28年(1953年)9月に設立されました。

北海道の代表的な研究機関である北海道立林産試験場は，昭和25年(1950年)戦後の本道の復興には木材産業の発展が必要であり，そのために北海道独自の木材研究機関の設立が不可欠との考えにより旭川に設立されました。北海道の大雪山系には豊富な木材資源があり，その資源を背景にして山系の裾野広く，多くの造材業，製材工場，合板工場そして家具工場が生産活動を始めておりました。当時，木材の加工技術や木材の材質的知識を最も必要としていた地域として，ここ旭川に設置が決まったと思われます。

そして必然的に，この林産試験場の研究成果や開発技術を全道，全国の木材産業界に広く普及し，また業界からの要望や課題を試験場に伝えること，さらに行政機関との連携を図る基幹団体等が必要となってきました。北海道林産技術普及協会はこの役割を果たすべく，試験場設置3年後に設立されたのであります。いわゆる試験場の応援団ともいえる組織であります。

当時，林産試験場と北海道林産技術普及協会を立ち上げた北海道の研究者，行政マン，そして木材業者の熱い情熱とその先見性に，心より敬意を表したいと存じます。そしてこの50年間，地道な研究とたゆまぬ技術開発を続け，木材産業の発展にご尽力された試験場や林産技術普及協会の先輩，現役の皆様に感謝を申し上げたいと存じます。

これら先輩の偉業を偲び，これからの協会運営の糧とすべく，創立50周年記念事業の一環として，「50年の歩み」と題して，記念コンパクト・デスクを作成致しました。本日皆様のお手元にお届けすることができました。作製に当たりましては，多くの方々から玉稿を賜りました。お陰様で素晴らしいものが出来たと感謝致しております。ありがとうございました。

さて，21世紀の現在，世の中は大きく変わりました。わが国の木材資源は天然林材が枯渇して広葉樹は小径木，針葉樹は人工林からの小径木，間伐材が主流となり，樹種に注目すると道内ではカラマツ，トドマツが，本州ではスギが主流になりました。製品もKDと集成材が当たり前の時代です。

しかしながら，多くの新興発展諸国からの輸入品ラッシュで木材製品デフレをもたらし，このままでは，わが国内において木材資源を利用した木材製造業が成り

立たないところまで来ております。これからは，国家レベルで山づくりから製品化までの循環システムづくりが重要な課題と思います。一方，生活面では優良住宅のための製品保証制度と健康のための安全性が最重要課題となっております。

今後の林産試験場には，この循環システムの中での人工林資源の有効活用と加工コストの低減及び木材廃棄物の再利用やエネルギー利用などの技術開発，製品保証面では基礎資料による耐久性能，構造計算による強度性能の明示，健康面ではVOCやホルムアルデヒドの測定システムの確立や無害化の研究など，幅広い役割が期待されるところです。

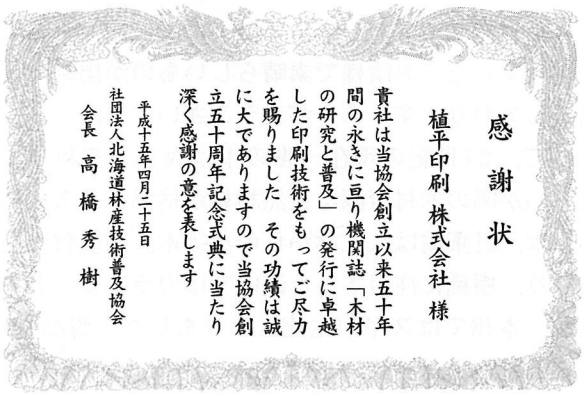
昨年，小柴さん，田中さんがノーベル賞を受賞し，あらためて，今後の日本に必要なのは研究と技術開発であると認識したところであります。その意味で，林産試験場の役割は益々大きくなるといえます。わが社団法人北海道林産技術普及協会は，北海道立林産試験場がより活躍できる環境づくりと，木材産業界の要望を汲み取るべく，鋭意努力してまいります。

社団法人北海道林産技術普及協会の創立50周年記念式典に当たりまして，これまでご指導，ご支援頂いた皆様，並びに本日ご出席の皆様に深く感謝申し上げますとともに，今後とも変わらぬご指導，ご支援をお願い申し上げます。

感謝状贈呈

会長の式辞に続き，感謝状の贈呈が行われました。感謝状贈呈者と感謝状は以下のとおりです。

植平印刷株式会社 様


感謝状

植平印刷 株式会社 様

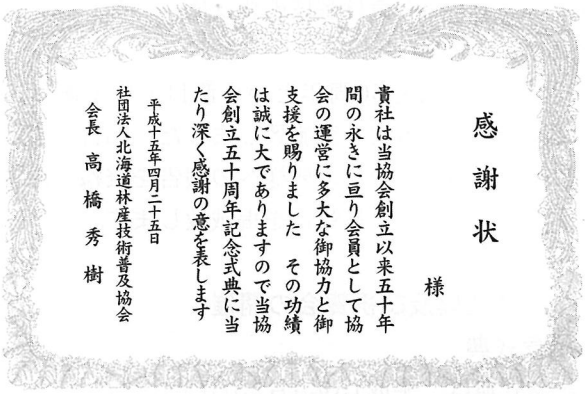
貴社は当協会創立以来五十年間の永きに亘り機関誌「木材の研究と普及」の発行に卓越した印刷技術をもってご尽力を賜りました その功績は誠に大でありますので当協会創立五十周年記念式典に当たり深く感謝の意を表します

平成十五年四月二十五日

社団法人北海道林産技術普及協会

会長 高 橋 秀 樹

伊藤組木材株式会社 様
株式会社イワクラ 様
昭和木材株式会社 様
丸玉産業株式会社 様
財団法人日本合板検査会　北海道検査所 様
江野木材工業株式会社 様
株式会社大井製作所 様
三津橋産業株式会社 様
札鶴ベニヤ株式会社 様
天富木材株式会社 様
濁川製材株式会社 様


感謝状

様

貴社は当協会創立以来五十年間の永きに亘り会員として協会の運営に多大な御協力と御支援を賜りました その功績は誠に大でありますので当協会創立五十周年記念式典に当たり深く感謝の意を表します

平成十五年四月二十五日

社団法人北海道林産技術普及協会

会長 高 橋 秀 樹

来賓祝辞

ご来賓のお祝辞は次の方々から頂きました。

北海道水産林務部長　大　畑　邦　彦　様

本日はお招きいただき，ありがとうございます。

北海道林産技術普及協会が設立され，五十周年を迎えられましたことを，心からお祝い申し上げます。

皆様の協会は，昭和二十八年に，林産工業会の有志により設立されて以来，半世紀にわたり，木材加工技術の向上と普及に努められ，木材産業の振興に大きく貢献されてきました。

中でも，木のグランドフェアなどのイベント開催やウッディエイジをはじめとした普及誌の発行，道立林産試験場との連携による木と暮らしの情報館の運営や研究成果の発表などの普及活動は，研究機関と業界との橋渡し役として，大きな役割を果たしてこられました。

あらためて，深く敬意を表しますとともに，厚くお

礼申し上げます。

さて，一昨日から高橋新知事の道政運営がスタートしました。

新知事は，森林・林業関係では，森林の育成や自然環境の保護に取り組む「グリーン雇用」の推進。

また，道産材を活用し，高齢化社会や健康に配慮した良質な住宅の普及や生活用品の普及促進につとめること。

さらには，地球温暖化防止機能を十分に発揮する森林づくりなどを重点的に進めることとしております。

これらの施策については，林業関係者の皆様から，ご支援，ご協力をいただいて，全国の都府県に先がけて制定した「北海道森林づくり条例」の基本理念であります

・ 地域の特性に応じた森林づくり
・ 林業，木材産業等の健全な発展
・ 道民との協働による森林づくり

と基本的に同じ方向のものと考えております。

現在，木材産業は，住宅着工の減少による木材需要の減退や輸入木材の増加などにより厳しい状況が続いています。

そうした中で，近年，地球温暖化防止の観点から木材及び木質バイオマスの利用の推進が提唱され，国が策定した「地球温暖化対策推進大綱」や「地球温暖化防止森林吸収源十カ年対策」においてその必要性が明記されるようになってきました。

もとより，木材は再生産可能な資源であり，これを有効に利用していくことは，森林整備の促進にとどまらず，環境負荷が少ない循環型社会の形成にもつながるものであります。

こうしたことから，地域材の利用を一層積極的に進めることが重要であり，道としても公共事業での利用促進をはじめ，地域と密着した施策を展開しているところです。

貴協会におかれましては，今後とも，林産物の新たな加工・利用技術の開発や普及等を通して，木材産業の振興にご尽力され，環境調和型産業である林業・木材産業の将来を切り開いていただきますよう心からご期待申し上げます。

終わりになりますが貴協会並びに会員の皆様方の一層のご発展を心から祈念申し上げ，お祝いの言葉といたします。

北海道森林管理局　旭川分局長　高　澤　修　様

北海道林産技術普及協会創立五十周年記念式典の開催にあたり，一言ご挨拶申し上げます。

貴協会が五十年もの長きに渡り，北海道における林産技術の開発・普及に貢献され，本日ここに五十周年記念式典が盛大に開催されましたことに心よりお喜び申し上げます。

また，皆様方には常日頃から国有林野事業の推進につきまして，深いご理解と多大な御協力を頂いておりますことに対しまして，厚くお礼申し上げます。

貴協会は，昭和二十八年に，木材加工技術に関する研究を促進し技術の向上及び普及に努め，林産工業の振興に寄与することを目的に設立され，今日までの半世紀に渡り，月刊誌「ウッディエイジ(木材の研究と普及)」などの発行，会員を対象とした講演会の開催，(社)日本木材加工技術協会北海道支部との共催による「木材乾燥講習会」「木材接着講習会」の開催，北海道立林産試験場との「木のグランドフェアー」の開催など，木材加工技術の研究と普及に努められ，北海道内はもとより全国の林産業界の発展に多大な貢献をされているところであり，関係者の皆様に深く敬意を表する次第であります。

さて，二十一世紀は地球的規模での環境問題に真剣に取り組むことが必要となっています。特に，平成九年の京都議定書締結にみられるとおり，地球温暖化防止に果たす森林の役割は国際的に極めて重要なものと認識されています。

同時に，森林の営みで二酸化炭素が固定された木材の利用についても，たとえば木造住宅は炭素を貯蔵固定し地球環境保全に貢献していること，木材は加工・利用過程における環境負荷が少ないことなど，その意義が浸透しつつあります。

このような中，政府が昨年四月に決定した地球温暖化対策大綱を踏まえ，林野庁では「地球温暖化防止森林吸収源十カ年対策」を策定し，①健全な森林の整備，②保安林等の適切な管理・保全等の推進，③木材・木質バイオマス利用の推進，④国民参加の森林づくり等の推進の目標を掲げ，本年以降各種施策を推進することとしています。

このうち，「木材・木質バイオマス利用の推進」に関しては，木材利用に関する国民への普及啓発，木材

産業の構造改革等を通じた住宅や公共部門等への木材利用の拡大，木質資源利用の多角化を目指すこととしています。

また，国内の木質資源の利用を推進することは，健全な森林の整備を進める上できわめて重要であり，これまでも政府の「木材利用推進関係省庁連絡会議」の開催など各般の取組が進められてきていますが，平成十四年度にはいわゆるグリーン購入法が定められ，間伐材等の利用をさらに積極的に進めることとされております。

旭川分局といたしましても道北地域の国有林における公益的機能の維持増進等，多面的な森林整備に取り組んでいるところですが，森林資源の循環利用拡大の観点から「木材利用推進プロジェクトチーム」を結成し，公共事業への木材利用及び間伐材の利用促進を重点課題として，取組を進めているところであります。

また，道北の上川地域には，広大な森林を背景として，木材加工業が多く発達しているとともに，近代的な研究施設の整備された北海道立林産試験場もあり，北海道の主要樹種についての製品開発，技術の企業化促進などに取組まれ，これまでも数多くの成果を挙げられていることは，誠に心強いものがあります。これからも，地域産材の利用促進に向けて一層の木材の需要開発，加工技術の向上・定着に向けた試験・研究及び技術普及の推進が強く期待されております。

私共も，貴協会をはじめ，北海道立林産試験場や日本木材加工技術協会とも連携をさらに深めさせていただき，北海道における林産技術の開発・普及を基礎とした林業・林産業の発展に寄与してまいりたいと考えております。

貴協会が，この五十年の輝かしい活動の実績を踏まえ，森林資源の有効活用と，付加価値の向上に資するための木材加工技術の開発・普及活動をさらに積極的に展開され，より一層御発展されますことをご期待申し上げますとともに，会員の皆様方の益々のご繁栄をご祈念申し上げ，祝辞といたします。

北海道木材協会会長　三津橋　貞　夫　様

北海道林産技術普及協会の創立五十周年記念式典にあたり，本道の木材業界を代表して一言お祝いを申し上げます。

林産技術普及協会は，いまの林産試験場の前身であります林業指導所が昭和二十五年に開設されましたが，

その三年後に発足したことになります。

試験場が，どのような試験・研究テーマを選ぶか，また，その成果をいかに業界等に普及させるかにつきましては，試験場が自らの問題として取り組むべきものではあります。しかし，産業研究機関が業界と一体となって歩むためには，業界が抱える問題を，恒常的に試験場の業務に反映できる仕組みが必要であります。その意味で，産業に直接役立つ試験研究を標榜している林産試験場にとりまして，普及協会は欠くことのできない組織であったと思います。

普及協会は，創立以来，月刊誌であります「木材の研究と普及」をはじめ，各般にわたる技術図書などの出版事業や講習会・講演会の開催，技術相談や試験依頼の仲介，また，木材への理解を深めるためのイベントの開催など多方面にわたる対外的活動を展開する一方，試験場の運営や研究活動の円滑化のための支援業務を実施してこられました。

これら試験場と普及協会の活動によりまして，本道の木材関連産業は，技術の向上や経営の改善などの面で多大の恩恵をこうむって参りました。これまでの関係の方々のご努力に敬意を表し，感謝申し上げる次第であります。

いま，国内の木材業界は，住宅の需要が頭打ち状態にある上に，市場の国際化による安い製品の流入などによりまして，誠に厳しい局面に立たされています。輸入製品が増加する要因は，割高感が拭えない昨今の為替レートに起因する生産コストの内外価格差にあると考えております。この価格差は，現時点では，工程の合理化や付加価値の向上などでは到底埋め切れないほど大きいものであります。

しかし，長期的には，途上国の木材需要の急増などにより世界の木材需給はタイトになり，趨勢として輸入品の価格を押し上げ，内外価格差は縮まるものと考えられます。さらに，木材は地球上で数少ない再生産可能な資源で，加工時の環境への負荷が少なく，循環利用が容易であるなど，循環型社会を形成するうえで最適の資材でありますので，今後，金属やプラスチックなどの競合資材に対する競争力は相対的に高まっていくものと考えております。

このような共通認識を持ちながら，業界として，不

断にコスト削減や付加価値の向上，新製品の開発に努めるならば，必ずや今日の困難は克服され，再び活力を持った産業として発展できる日が来るのも遠くはないものと確信しております。

それにしましても，本道の木材業界として，これまでの経営姿勢において，反省しなければならない点も多くあります。林産試験場は，創設されて五十余年を数え，世界にも誇るべき体制で，数々の実績を積み重ねて参りましたが，本道の業界は，この林産試験場を，そして，その成果を十分に活用してきたといえるでしょうか。豊富で優れた品質の木材資源に安住して，自らの経営改善や技術革新に背を向けてきた面もあるのではないでしょうか。内外の資源の，現状や将来を考えるとき，業界としては，林産試験場を経営や技術革新の先導役，あるいは，パートナーとして再認識し，相互に切磋琢磨しつつ歩むという，至極当然な関係を築くべきであります。

林産試験場といたしましても，「産業に直接役立つ機関であるべき」という初志を貫き，木材の将来を見据えた試験研究や技術の蓄積に一層専念すべきであろうと思います。

林産技術普及協会におかれましても，試験場と業界をつなぐ組織として，試験場の成果の普及などの業務はもとよりですが，将来，業界が必要とするとみられる試験研究課題を積極的に探り，また，試験研究の環境づくりを支援するなど，この五十年を契機に今まで以上に幅広に活動を展開され，さらに飛躍されることを期待し，祝辞といたします。

祝電披露

次の方々から祝電を頂きました。

財団法人　日本住宅・木材技術センター
理事長　岡　　勝　男　様
社団法人　日本木材加工技術協会
会　長　有　馬　孝　禮　様

祝　賀　会

記念式典に引き続き16時30分から，祝賀会が開催されました。

社団法人北海道林産技術普及協会
創立50周年記念祝賀会次第

開　　会
あいさつ　社団法人北海道林産技術普及協会副会長
高　原　　郷
祝　　杯　北海道立林産試験場場長
齋　藤　勝　次　様
祝　　宴
万　　歳　社団法人北海道林産技術普及協会顧問
元北海道大学農学部教授
宮　島　　寛　様
閉　　会

2．記念CDの発行

記念誌に代え，当協会の50年の歩みをコンパクト・デスク(CD)に纏めました。

CD作製に当たりましては，多くの方々から玉稿を賜り，また，資料収集には北海道立林産試験場普及課の皆様にご尽力を賜りました。なお，CDは，システム工房(旭川市緑が丘東２条３丁目)松本修一氏に依頼し，作製致しました。

記念CDは，祝賀会出席者並びに当協会会員に配布致しました。

3．創立50周年記念シンポジュウムの開催

シンポジュウムは，「木材利用と地球環境を考える」をテーマに，北海道立林産試験場公開講座，社団法人北海道林産技術普及協会創立50周年記念事業として，北海道立林産試験場と社団法人北海道林産技術普及協会の共催で，平成15年8月6日，13時から17時まで，旭川市民文化会館小ホールで開催されました。入場者が300名を越える大盛況でした。

開催の趣旨

木材は，再生産可能な資源です。生育途中の樹木は二酸化炭素を吸収するので，地球温暖化の防止に大きな期待がかけられています。

21世紀は「持続可能な社会の構築」が人類に課せられた大きな課題と言われております。そのためには，森林づくりと木材の利用が大きな鍵と言われております。

このため，地球環境を悪化させないためには「樹をもっと植えよ，そしてもっと木を使おう」と主張されている，カナダ在住の環境コンサルタント，グリーンスピリッツ一代表のパトリック・ムーア博士をお招きし，基調講演をいただき，博士の講演を主題にパネル

ディスカッションを企画しました。

開催内容

13:00～13:15　主催者開会のあいさつ
　　北海道林産技術普及協会
　　会　長　高　橋　秀　樹
13:15～14:50　基調講演(通訳付き)
　　環境コンサルタント
　　パトリック・ムーア氏
14:50～15:00　休　　憩
15:00～16:50　パネルディスカッション
16:50～17:00　主催者閉会のあいさつ
　　北海道立林産試験場
　　場　長　齋　藤　勝　次

基調講演

Green Spilit－Trees are answer「グリーン・スピリツー樹木が答」と題してパトリック・ムーア博士が講演された。

ムーア博士は，グリーンピースの創設メンバーの一人で，グリンピース・カナダの代表を９年間，(1977～1986年)，グリーンピース・インターナショナルの理事を７年間(1979～1986年)歴任しました。そして，グリーンピースが世界的な環境保護活動機関として成長する間，ムーア博士は数多くのキャンペーンのリーダーとして，グリーンピースの活動方針づくりに力を注ぎました。

1980年代の終焉と共に，ムーア博士はグリーンピースでの活動を止め，1991年に，天然資源・エネルギー・気候変動などを総合的に考えるコンサルタント業の「グリーンスピリッツー」を創設し，その代表として活躍されておられます。

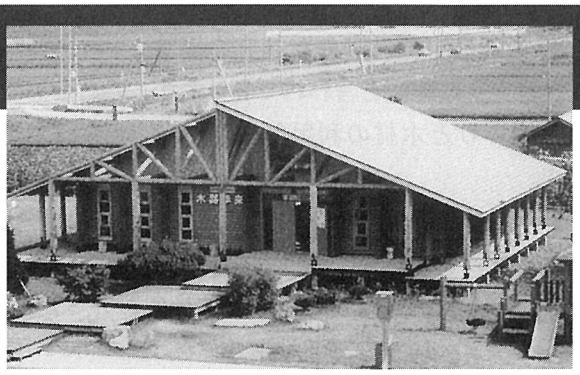
なお，講演内容については，本誌2001年4月号を参照して下さい。

パネルディスカッション

パネルディスカッションは「木材利用と地球環境を考える」と題して以下の方々に参加いただきました。

コーディネーター　　石　井　　寛　　氏
　　(北海道大学大学院農学研究科教授)
コメンテイター　　パトリック・ムーア　氏
　　(カナダ在住，グリーンスピリッツ代表)
　　寺　島　一　男　氏
　　(大雪と石狩の自然を守る会代表)
　　早　坂　尚　美　氏
　　(環境ネットワーク旭川(地球村)事務局)
　　長　原　　實　氏
　　(社団法人全国家具工業連合会会長)
　　高　原　　郷　氏
　　(旭川地方森林整備事業協同組合理事長)
　　丸　山　　武　氏
　　(北海道立林産試験場副場長)

ログハウス「木路歩来(コロボックル)」



「情報館」となりのログハウスは，北海道内に植えられたカラマツの間伐材を一定の太さの丸太(ログ)に加工して組みあげたものです。

中には，木で作成した大型の遊具を配置してあります。親子で木にふれて，その優しさやぬくもりを体験してください。